


高齢者・障害者のQOL向上に関する研究

A Study on QOL of the Aged

 **キーワード** 長寿社会、高齢者、QOL（生活の質）、バリアフリー

1. 調査の目的

超高齢化社会を目前にして、高齢者の生活の質（QOL）をトータルでどのようにとらえていくかは、大きな社会的課題である。

本研究は、21世紀の高齢者の生活像を明らかにするために、学際的な研究の視点からまとめたものである。なお、本研究は2ヶ年計画であり、今年度はとりあえず高齢者のQOLの現状と変化要因をいくつかの視点からまとめた。

主な参加研究者とテーマは以下の通りである。

大阪市立大学生活科学部 白澤政和教授（QOL向上のための社会的支援）

日本社会事業大学社会福祉学部 児玉桂子教授（長寿時代の住環境）

国際医療福祉大学医療福祉学部 高橋泰教授（介護保険が住民のアメニティに及ぼす影響）

2. 調査研究成果概要

1) QOL向上のための社会支援

知的障害者を持つ家庭に対する生活支援に関する調査を、大都市圏近郊のN市を対象に行った。

サポート体制の整備や世話や家事の代替により、ある程度の「生活の困難感」の軽減は可能であるが、やはり限界がある。各家族の持つ困難さ、当事者の様子を多面的に捉え、その家族の持つプラスの面を利用し、かつ不足しているところを補うような、生活をトータルに見据えたサービスの提供、既存の高齢者・障害者向けのサービスとの組み合わせなどがポイントとなる。

2) 長寿時代の住環境

これまで福祉というと、対象となる高齢者・障害者等の人間のことしか考えてこなかった。しかし、介護保険が施行されると、「在宅重視」と「自立支援」という2つの視点から、環境とりわけ住環境が大きくクローズアップされてきた。

この観点からは、すぐにバリアフリー住宅といったことが出てくるが、それ以前に、そもそもどのような「住まいかた」を選択するのか、あるいは「住まいのシナリオ」が重要になってくる。たとえば高齢期の転居をもっと積極的に見直そうという動きがある。

そして、今後の大きな社会課題として、「地域で自立した生活を維持するための支援サービス」があげられる。たとえば、今は人里はなれた辺りなところに老人ホ

ームなどの福祉施設があるが、これらの施設を街中に配置しなおそうという動きがある。さらには、施設や在宅の高齢者を積極的に街中に連れ出そうという傾向もある。これらを実現するためには、都市空間のバリアフリーだけでなく、さまざまな新しいサービスやシステムとの組み合わせが不可欠である（外出支援の福祉タクシー、車椅子ナビなど）。

3) 介護保険が地域住民のアメニティーに及ぼす影響

鹿児島県球磨郡相良村を対象に、地域の高齢者全員の生活タイプを分類した。分類手法としては、T A I（イラストを用いた高齢者区分法）方式を採用した。

その結果、生存の危険が危ぶまれるようなケースが存在することが確認された。これらのケースが、介護保険導入に伴って変化していくかの実証的研究は、12年度に継続して実施される予定である。

いずれにせよ、高齢者のQ O Lは、家族構成、地域、所得など様々の条件によって多様であるが、今後は、社会的要因を含めたトータルな視点でのその生活像の中で捉えるべきものであることが明らかになった。